

## クマに関するQ&A

近年、人とクマのあつれきについての報道を目にすることが多くなりました。本来、クマは人を避けて暮らす動物ですが、様々な要因によって残念ながら人とクマとの間にはトラブルが発生しています。トラブルが発生しないようお互いが折り合いをつけて生活するためには、まずクマのことをよく知ることが重要です。

### Q1：日本には何種類のクマがいますか？

A：日本にはヒグマとツキノワグマの2種類が生息しています。ヒグマは北海道、ツキノワグマは本州以南に分布しています。したがって、島根県に生息するクマは「ツキノワグマ」です。九州では絶滅したとされています。

### Q2：ツキノワグマは夜行性ですか？

A：夜行性と思われがちですが、森に暮らすクマは昼行性です。しかし、人里に下りてきて活動するときは、人との接触をさけるために夜行性になることが知られています。また、朝や夕方の薄暗い時間帯に活発に行動しますが、これを「薄明薄暮性」と言いません。

### Q3：クマは肉食動物ではないのですか？

A：基本的な食べ物は植物を中心とした「雑食性」です。大きな犬歯は残っていますが、臼歯（奥歯）は植物をすりつぶすのに適した形に変化しています。

### Q4：クマは山でなにを食べているの？

A：春は、主に芽吹いたばかりの柔らかい植物の新芽や花、タケノコなどを食べています。夏には早い時期から結実するキイチゴ類やサクラ類の実を食べたり、アリやハチ、サワガニなどもよく食べています。秋には、コナラやミズナラなどのドングリが主食ですが、クマノミズキやクロキなどの液果類、サルナシやアケビなどのつる性植物の実をよく食べています。また、機会は少ないですが、死んだり、弱ったりしたイノシシやシカなどの肉を食べることもあります。

### Q5：クマはなぜ冬眠するのですか？

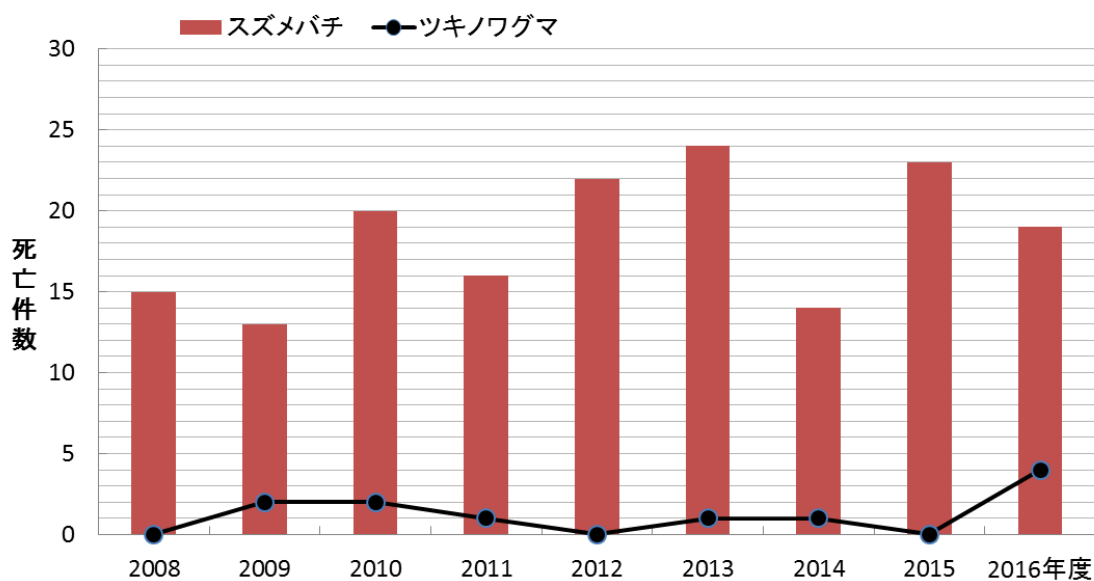
A：ツキノワグマとヒグマは秋に大量に食べて皮下脂肪を蓄えて、エサの少ない冬（12～4月頃まで）は樹洞や岩穴で冬眠して過ごすように進化しました。クマの冬眠の特徴は、①体温の降下度が小さい。②冬眠期間中はほぼ中断なく眠り続ける。③いっさいの摂食飲水、排泄排尿がない。④一部のメスは出産することです。したがって、外部からの何かしらの刺激があれば目覚めて穴から出てきます。また、一年中果実や昆虫類が

豊富な熱帯地方に生息するクマの仲間は冬眠しません。

#### Q6：クマは、なぜ人を襲うのですか？

A：クマはもともと臆病な動物で、警戒心が強く人を避けて生活しています。クマが最初から人を襲おうと思っていることはほとんどありません。通常は、人を見たら逃げるかじっと隠れてやりすごします。しかし、狭いところに追いつめられたり、人とばったり出会ってびっくりしたときに、一撃を加えて逃げようとする場合があります。また、子グマを守ろうとする母グマは必死なので、子グマに近づくと危険です。これらの状況は、普段からクマと出会わないように気をつけていれば避けることができます。より危険なのは、食べ物に執着したクマに近づいた時です。特に生ゴミなどの「自然でない」食べ物に餌付いたクマは人に対する警戒心が弱くなって、予想できない危険な行動をとることがあります。

大量出没年であった2016年の全国でのツキノワグマによる死亡事故は4件でしたが、同年のスズメバチの死亡事故は19件でした(図)。なお、島根県ではこれまでクマによる死者は記録が残っている中では0件です。



#### Q7：なぜ、たくさんのクマが人里に出るのですか？

A：クマは、冬眠に備えて、秋季にドングリ類などを大量に食べます。この時期は、クマはいつもより行動範囲を広げて、餌をさがすようになります。近年の研究によって、ドングリ類が凶作の年に人里に大量出没することが明らかになってきました。また、冬眠からさめた春は、親離れした個体やこれから経験を積んでいく若齢個体が人里に迷い込んで目撃される場合が多くなる場合があります。

## Q8：クマとの遭遇を避けるためにはどうすればよいのですか？

A：次の①～③の対応に心がけて下さい。

### ① 家の周りで・・・クマを引き寄せない

クマを引き寄せるものの管理を徹底してください。生ゴミ、ペットフードや家畜用の飼料、食料はクマの手の届かないところに片付けましょう。屋外に置かれた冷蔵庫や物置も要注意です。ハチ、アリもクマにとってはご馳走です。巣を見つけた場合は取り除いてください。庭にカキなどの果実のなる木がある場合は、クマが登れないようにトタンを巻くなどの防護をするか、実をすべて収穫しましょう。

### ② 山の中で・・・出会わないように

山では鈴やラジオを鳴らしたり話をしたりして、常に人の存在をクマにアピールし、先に気付いてもらうようにします。クマは人に会わないように避けてくれます。ただし、沢沿いや雨の日などはこちらの音がクマに聞こえにくくなります。積極的に音を鳴らして十分に注意しましょう。また、キャンプ場では、食料や生ゴミの管理を徹底して、必ず持ち帰ってください。生ゴミを放置しておく、後から来た人が怖い思いをするかもしれません。

### ③ 犬を連れた散歩・・・必ずリードをつけて

リードをつけていない犬は、隠れて人をやり過ごそうとしているクマを見つけてしまうことがあります。そして、飼い主の元へ逃げ帰ってくる際に、クマが犬の後を追いかけてくることまれにあります。そのため、クマの生息地では必ずリードを付けて散歩してください。また、散歩中に犬が変な吠え方をしたら、クマがいると教えてくれているのかもしれないかもしれません。すぐにもと来た道を引き返してください。

## Q9：クマに出会ってしまったらどうすればいいですか？

A：非常に難しいですが、まずは落ち着くことです。クマも人に出会ったときは、怖くて、逃げたくて仕方がない状況です。人がパニックになればクマもパニックになります。クマを刺激しないように大声を出さずに向き合ったまま、ゆっくりと後ずさりして距離をとってください。（詳細は[当センターホームページ](#) > [鳥獣対策科](#) > [各種パンフレット](#)に掲載しています。）

## Q10：クマ鈴は効果があるんですか？

A：クマの生息地で事故に遭わないために、一番大切なことはクマに出会わないことです。自分の存在を事前にクマに知らせるために、山や森林付近の農地に出かけるときや夜間に外出するときはクマ鈴やラジオなど音のでるものを身につけましょう。クマ鈴を身につけることは、絶対の安全を保障してくれるものではありませんが、クマに出会わないための

最善の方法です。しかし、雨の日や川沿いは人の臭いや音がクマに伝わりにくいので大きな音を出しましょう。また、山菜採りやきのこ狩りなども注意力が散漫になるので、こまめに音を鳴らすようにしましょう。

#### Q11：クマは被害を出す動物なのになぜ保護するのですか？

A：クマは、生息地に近いところに住む人たちにとって、不安をあおる存在です。しかし、食べた植物の種をフンとして出すことで植物の広範囲での種子散布を助けるなど、クマは森林生態系を支える重要な役割りを果たしています。クマがいる森は、他の多くの動物も生息できる大事な地域です。

西中国山地はクマが生息できる豊かな森林です。今後、人とのトラブルを抑制しながら、クマが健全に生息できるように、人とクマの適切な住み分けを実現していくため、県民一人一人が力や知恵を出し合っていくことが必要ではないでしょうか。クマを守ることはクマの住む森や自然を守ることです。さらに、私たちが受け継いできた西中国の豊かな自然を守り育てて、次世代に引き継いでいくことが大切だと考えています。

#### Q12：人とクマが共存して暮らしていくために私たちにどのようなことができますか？

A：人とクマが同じ場所に住むことはできません。クマの住みか与人里が離れていたら、お互いに安心して住むことができます。現在の里山は放置されて、手入れをされなくなったため、クマにとって好ましい林が人の住む地域のすぐそばに出来てしまいました。そのため、人里とクマの住みかが隣り合わせになって、集落周辺ばかりでなく、集落の中にまでクマが入り込んで人身事故や大量出没が発生する原因になっています。さらに、だれも収穫しない放棄されたカキなどは、クマを集落に引き寄せる強力な誘引餌になっています。

人とクマが住み分けるには、集落の周りの放置されている里山を手入れして、クマが住みにくい緩衝帯を人里の外縁に築くことです。里山を積極的に利用することによって、木の実の凶作が発生しても、多くのクマが人の住んでいるところまで出戻らないように出来るのではないのでしょうか。また、クマの誘引餌になっているカキなどを適切に処理することも重要です。